

B-3 抗てんかん剤の新生児に及ぼす影響 — 特に新生児期について —

兼子 直, 福島 裕, 鈴木喜八郎, 佐藤時治郎
弘前大学神経精神科
小川 克弘, 野村 雪光

弘前大学産科婦人科

女性てんかん者が妊娠しても trimethadione は例外とし抗てんかん剤(抗テ剤)投与の中止は通常おこなわない。最近, 抗テ剤の催奇型性の指摘と共に新生児に対する他の副作用も注目され始めた。これらの問題の解明には retrospective な解析では信頼できる結果は得がたく, prospective な検討が必要である。我々は 1975 年以来, てんかん者の妊娠経過と生まれた児(E群)の観察を行ってきた。今回, 我々は以上の結果のうち, 42 回の出産(32 症例)につき, 特に抗テ剤の新生児血清内濃度, 母乳内濃度及び新生児の臨床症状等を報告する。

一結果一 E群と対照群(C群)の生下時体重には有意差は認められなかった。一方, 体重増加率は E群のうち, 母乳・人工栄養併用群(混合栄養群)では C群に比較し有意に低い。さらに生後 5 日目では E群のうち人工栄養群と混合栄養群の間でも有意差が認められた。新生児の抗テ剤血清内濃度(12 例)をみると, diphenylhydantoin(PHT)では, 生後 2~3 日目から急速に減少し, 半減期は 9.4~56.7 時間(平均 27.0 時間)であった。phenobarbital(PB)では血中からの排泄は極めて遅く, 半減期は計算上 128.3~1238.3 時間(平均 552.5 時間)となった。carbamazepine(CBZ)では 12.9 及び 35.8 時間, primidone(PMD)では 7.0~28.6 時間(平均 19.6 時間)の半減期を示していた。

抗テ剤母乳内濃度の血清内濃度に対する割合(M/S 比)はおよそ PB 36%, PMD 71%, CBZ 41% であった。M/S 比を経日的に観察すると変動がみられるが, 特に PMD, CBZ は出産後 1~2 日目に高い傾向が認められた。母乳摂取により児の血清内濃度は一過性に上昇する。

新生児期にみられる臨床症状は嘔吐, 哺乳力不良が多く, けいれん, 過敏, 睡眠障害, 振戦等である。これらの症状と母体が服用していた抗テ剤との関連についても報告する。

B-4 monopharmacy と polypharmacy — 肝機能検査値の面より —

久永 学,¹⁾ 内海庄三郎,¹⁾ 宮本誠司,¹⁾ 塚本澄雄²⁾

1) 奈良県立医科大学 脳神経外科

2) 国立奈良病院 脳神経外科

目的: 抗てんかん薬(以下 AED)の血中濃度測定により必要最少限の薬剤によるてんかん発作のコントロールが可能となってきた。投薬に際し, 薬剤の相互作用の面からも, polypharmacy より monopharmacy の方が望ましい事が言われている。今回我々は肝機能検査値の面よりこの問題を考えてみた。

方法: 15才未満の小児 102 名(男 56, 女 46)に対し肝機能検査(GOT, GPT, LDH, γ -GTP, ALP, LAP, CHE)と同時に AED 血中濃度測定を行なった。他に必要に応じ別の母集団で検討を行なった。

結果: ①肝機能検査結果。いわゆる正常範囲を逸脱したものの割合は γ -GTP(25%), ALP(25%), CHE(19%), LAP(21%), LDH(20%), GOT(10%), GPT(4%)であった。② γ -GTP 値が 40 mU/ml を越すものは 25 例で, すべてが polypharmacy であり, monopharmacy 群(PB 22 例, DPH 2 例, DPA 9 例)では 1 例もみられなかった。投薬内容では PB+DPH を主とする例で高い割合を示した。 γ -GTP 値が 150 mU/ml 以上を示したものは 5 例で, 全例が PB+DPH+DPA(+その他)の組合せであった。③高 γ -GTP 血症に対する polyenphosphatidil choline(EPL[®])の効果を検討する目的で行なった別の母集団 41 名(男 23, 女 18, 年令 5~70 才)においても 150 mU/ml 以上の γ -GTP 値を示したものは 10 例で, 全例が PB+DPH+その他の polypharmacy の例であった。この 10 例では EPL の著明な効果がみられた。④ GOT 異常を呈したものは 10 例で PB 単剤 2 例, PB+DPH 1 例を除き他はすべて 3 剤以上の併用であった。特に PB+DPH+DPA+その他の組合せでは 7 例中 3 例にみられた。⑤ LAP 異常を呈したものの 21 例中 14 例(67%)は PB+DPH+その他の多剤併用によるもので, 単剤投与例での異常はわずかであった。

結論: AED を選択投与する場合に AED の相互作用の面からだけでなく, 肝機能検査値の面からも monopharmacy の方が望ましいことが, 特に γ -GTP, GOT, LAP で示された。